

e シンキング（人づくり広域連合政策情報メルマガ）第 88 号

2012 / 2 / 15 発行（月 1 回発行）

## 【 目 次 】

今月のトピックス

「協働で進めるキャリア教育」

広域連合からのお知らせ

平成 24 年度政策課題共同研究の研究テーマを募集中

私の選んだこの一冊

「2022 - これから 10 年、活躍できる人の条件」

政策情報ライブラリー新着図書のご案内

今月のトピックス

・・・協働で進めるキャリア教育・・・

文部科学省の「キャリア教育における外部人材活用等に関する調査研究協力者会議」は、「学校が社会と協働して一日も早くすべての児童生徒に充実したキャリア教育を行うために」と題した報告書を、平成 23 年 12 月に公表しました。

この報告書では、キャリア教育について、「学校でのキャリア教育は学校・教職員が担うべきであるが、こうしたことを子どもたちに伝える場面においては、教職員以外の人材の協力があって初めて子どもの心に迫ることができる」とし、家庭や地域が協働して取り組むことの重要性を提言しています。

現在、中学校の職場体験活動実施率が 97% になるなど、多くの学校で職場体験活動やインターンシップが実施されています。しかし、東京商工会議所が実施した「『企業による教育支援活動』に関するアンケート（平成 22 年）」

によると、学校からは「受入先の確保が困難」という課題が多く挙げられる一方、企業からは「学校側から企業への支援要望がない」という課題が最も多く挙げられています。つまり、学校と受入先である地域との情報のミスマッチが協働を進めていく上での課題として挙げられます。

そこで、本報告書では、埼玉県の「産業人材育成プラットフォーム」を解決事例として紹介しています。この事業では、県、企業、県・市町村教育委員会、大学などで構成された産業人材育成推進会議が、各機関の人材育成に関する情報を一元的に管理し、情報を共有するなど、より良いキャリア教育を進めていくための環境を整備しています。

また、経済産業省と文部科学省は、キャリア教育の普及・啓発を図るため、学校と地域が連携してキャリア教育に取り組んでいる先進事例を表彰する「キャリア教育推進連携表彰」を平成23年度に創設しました。今年度は、学校と商工会議所などで組織された「よこすかキャリア推進事務局」が、地元企業からの学校への講師派遣や地元企業における職場体験の実施をコーディネートし、学校における体系的なキャリア教育を実現している事例が最優秀賞として受賞しています。

我が国の経済状況は依然として先行き不透明であり、雇用情勢も好転していません。地域の次世代を担う子どもたちが、このような厳しい状況においても社会に適応し、それぞれの個性を最大限に発揮しながら自立して生きていくために、地域との協働で進めるキャリア教育に期待が高まります。(む)

---

#### 広域連合からのお知らせ

平成24年度政策課題共同研究のテーマを募集中！

当広域連合では、職員の政策形成能力の向上と県及び市町村における政策立案に役立てるため、県と市町村の職員が共同で行う政策課題共同研究を実施しています。

平成24年度の研究では、「地域課題解決型」と「テーマ研究型」に分けて研究テーマを募集します。「地域課題解決型」は、特定の自治体（地域）における具体的な課題を研究するもので、有識者をコーディネーターに迎え、実践的で質の高い研究を目指しています

現在、研究テーマを募集しています。提案したいテーマがございましたら、応募様式によりご応募をお願いします。(2月29日まで)

詳細はこちら

<http://www.hitozukuri.or.jp/jinzai/seisaku/80kenkyu/01/H24t/bosyu.htm>

=====

私の選んだこの一冊

「2022 これから10年、活躍できる人の条件」  
(神田昌典 著 / PHPビジネス新書)

これから10年後、私たちは、バリバリ活躍しているだろうか。私たちの家族はどんな生活を送っているだろうか。社会は、行政はどんな状況になっているのだろうか。そんなことを問いかけてくる1冊だ。

東日本大震災、原発事故、長引く不況・・・客観的にみれば、日本を取り巻く状況には明るい兆しは見えない。それにもかかわらず、本書では「これからの日本は、チャンスに溢れている」と論じられている。「歴史は70年周期で巡っている」、「これからはアジアを中心にシフトチェンジする」、「『器』にとられない社会がはじまる」など、10年後に活躍できる人になるための様々なヒントを、客観的データに基づき、「未来を拓く」最強ツールとして紹介している。

ただし、「チャンス」を手にするのは、「今、希望を描き、行動を起こす」ことを選んだ人のみ、と説いている。今の状況を的確に分析してから、未来を予測し、自分に何ができるかということを考えれば、自分に何が足りないのか、自分が今何をしたら良いのかが見えてくる、と著者は述べる。今、この瞬間の選択こそが、これから10年後に、活躍しているか、人生を後悔しているかのターニングポイントになる、と指摘しているのが印象的である。

著者は2007年に総合ビジネス誌で「日本一のマーケッター」に選出された経営コンサルタント。本書には、数々の経営相談を通じて培った、具体的な方法論が挙げられている。こうした数々の方法論は、我々自治体職員にとっても実に興味深い情報が多い。なぜなら、人々の生活は様々な経済活動の上に成り立っており、その動向を予測し行動することは、行政を担う一員として、何年先のことを考え、誰のことを考えながら業務を遂行すべきかを考える上で非常に重要だからである。

日本という国家、そして日本人の将来を左右する歴史的な分岐点にさしかかっている今だからこそ、未来に希望を描き行動を起こして行かなければならない。そうすることで、誰にでも可能性が開けるのである。10年後、どう活躍し、誰をハッピーにしたいのか思い浮かべながら読んでいただきたい一冊である。(AR)

=====

政策情報ライブラリー新着図書のご案内  
2月の新着図書は次の5冊です。

- 『地域活性化のマーケティング』  
古川一郎 / 編 有斐閣
- 『地域主権改革一括法の解説 自治体は条例をどう整備すべきか』  
小泉祐一郎 / 著 ぎょうせい
- 『地域主権時代の新しい公共 希望を拓く NPO と自治・協働改革』  
今瀬政司 / 著 学芸出版社
- 『日本の地縁と地域力 遠隔ネットワークによるきずな創造のすすめ』  
八木橋宏勇、石黒妙子 / 著 熊谷文枝 / 編著 ミネルヴァ書房
- 『地域研究とは何か フィールドワークからの発想』  
小林浩二 / 著 古今書院

蔵書の閲覧・貸出は、構成団体職員の方ならどなたでもできます。

詳しいご案内、蔵書一覧は

<http://www.hitozukuri.or.jp/jinzai/seisaku/82network/02/Library.htm>

=====

ご意見・掲載希望

今月号のeシンキングはいかがでしたか？ご意見・ご感想がありましたら  
下記担当までお寄せください。また、各コーナーでは皆様からの参加レポート  
などの情報提供を随時募集しています。「これは記事になるかな？」という  
ものがありましたら、お気軽にご連絡ください。

[ eシンキング / 毎月15日発行 ]

発行元

彩の国さいたま人づくり広域連合 政策管理部（石橋・村田）

〒331-0804 さいたま市北区土呂町2 - 24 - 1

TEL:048-664-6681 FAX:048-664-6667

WebPage: <http://www.hitozukuri.or.jp>

E-Mail: [jinzai03@hitozukuri.or.jp](mailto:jinzai03@hitozukuri.or.jp)

=====